
茜空に、僕が浮かんでる。

ミッシ・ゴッシュ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

茜空に、僕が浮かんでる。

【Nコード】

N5277F

【作者名】

ミッシ・ゴッシュ

【あらすじ】

見上げた空は茜色に染まっている。小さな小さな僕は、何を求めているのだろうか。

「なあ、俺が死んだら、お前は泣いてくれるか？」

さつきまで青かった空は、何時の間にか茜色に染まっていた。遠くからは鴉の鳴き声と、野球部顧問の激が聴こえて来る。眼下に広がる運動場では、陸上部の面々が秋に向けてか、巫山戯た様子も無く黙々とトラックの周りを走り込んでいる。

凄く、今更な問いだと思う。聞かなくなっただって解ってるくせに。

「……かもね」

僕達の間にあるフェンスは、もたれ掛ると仄かに熱を感じさせる。それはシャツ越しにさえ伝わる程に。

屋上から見る空は、何時もより少しだけ近くて、少しだけ鮮やかに見えた。

「何だよそれ？ 普通、嘘でも泣くって言うだろ」

生き残った蝉達の演奏会が、鬱陶しくも心地好く響いている。それはまるで、君のようで。

「僕、嘘は嫌いなんだよね。知ってるでしょ？」

「友達甲斐のねえ奴、俺の青春を返せよ」

フェンス越しの山下君は何時もの調子で戯けた後、遠慮気味にぎ

こちなく笑う。夕陽に染まる世界で、山下君の白い歯だけが輝いていた。

「なあ、帰ろうぜ。もうすぐ暗くなんだろうしよ」

「そっだね」

僕の隣に君がいるように、君の隣に僕がいる。単なる幼馴染みなのかも知れない。でも、それだけじゃないのかも知れない。

「早く忘れるこつたな。男は星の数、女だって同じなんだからよ」

そんな単純な話じゃない。でも、それを打ち明ける事は無いから、山下君は呑気に笑ってれば良いんだよ。

「……ごめんね」

「ごめんじゃねえよ」

怒ってるのか笑ってるのか、僕にはよく解らないけれど、そんな曖昧な表情が一番好きだったりする。

「んな時はありがとっつーんだよ」

「そっか……」

ここに来る度、山下君はそう言って無邪気に笑う。フェンス越しに君と話すのも、何度目になるのか覚えていない。けれど、その度に君は文句も言わず付き合ってくれる。

「ありがとう」

茜空に、小さな雲が浮かんでる。

2008/9/02

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5277f/>

茜空に、僕が浮かんでる。

2010年10月15日16時44分発行